

モーターエクスプレス



ソーラーカーのギネス最高速記録(時速88.8km)更新に挑む「ソーラーカーチーム篠塚」の壮行会が27日、都内で行われ、チーム代表兼ドライバーの篠塚建次郎(63)が決意を新たにしました。ラリーに40年以上も身を置いて輝かしい結果を残してきた

が、化石燃料を使って世界中を汚したという思いも強く、これからは究極のエコカーであるソーラーカーの普及に尽力する決意を改めて強調した。記録挑戦の「Xデー」、10月1日へ全精力を費やす覚悟だ。

(ペン&カメラ=田村尚之)

「ソーラーカーチーム篠塚」壮行会

63歳で新たな挑戦を開始した篠塚とサポーターたち。(左から)東芝の飯島部長、篠塚、鈴木商事の玉村取締役、前神奈川県知事の松沢氏



今まで地球を汚した分も

最速ギネスへ新たな決意

共感 挑戦し続ける団塊世代のヒーロー

篠塚建次郎は多くの理解者に支えられている。今年立ち上げた「ソーラーカーチーム篠塚」も、山田修司監督を筆頭に全員が本業を持つ身ながら、篠塚の熱い思いに共感。簡単ではない世界一のプロジェクトに挑む決意をしたのだ。

それは、ビッグプロジェクトでは欠かせないスポンサーも同じ。世界一の変換効率を誇るソーラーカーパネルを提供した東芝も、篠塚の挑戦し続ける姿勢に心打たれ、初会合からわずか4日でサポーターを決定したという。「篠塚さんの生き方そのものに共感しました。日本を再生するようなチャレンジですし、選歴を超えての挑戦も簡単なことではありません。ぜひともサポーターになりたいと思いました」と、壮行会に出席した太陽光発電システム推進部の飯島秀郎部長は言い切った。

普及

多くの人を突き動かす篠塚の信念はただ一つ、地球環境だ。「40年以上もラリーで世界中を走り回り、化石燃料をいっぱい使って世界中を汚してきました。だからこそ次世代に引き継ぐ環境を考え、自分の運転技術を生かせないだろうかという思いに至り、クリーンエネルギーの象徴であるソーラーカーで世界最速に挑むことに行き着いた」。代替エネルギーとして期待される太陽光発電を使ったソーラーカーの認知普及を目的に、ギネスへ挑戦するのだ。

試練

大記録の挑戦前にも及ぶ世界最長のソーラーカーレース「サウル・ソーラーチャレンジ2012 サウスアフリカ」(9月18-28日|南ア)に参戦し、まずはチームの結束力を高める。その後、10月1日に南ア・プレトリア郊外のオバルコースで現在のギネス挑戦、時速88.8km超えに挑むが、レースとは違いバッテリーを搭載せず、ソーラーパネルが発生する電力だけで走る大きな試練が待っている。

東芝との架け橋

○：壮行会には前神奈川県知事の松沢成文氏も出席した。「1年ほど前にテレビ番組で対談して以来、篠塚さんのポリシーに深い感銘を受けました」と語るほどの「篠塚シンパ」。東芝との架け橋にもひと肌脱いでおり、チーム篠塚の活動を大きくサポートしている。

前神奈川県知事も出席